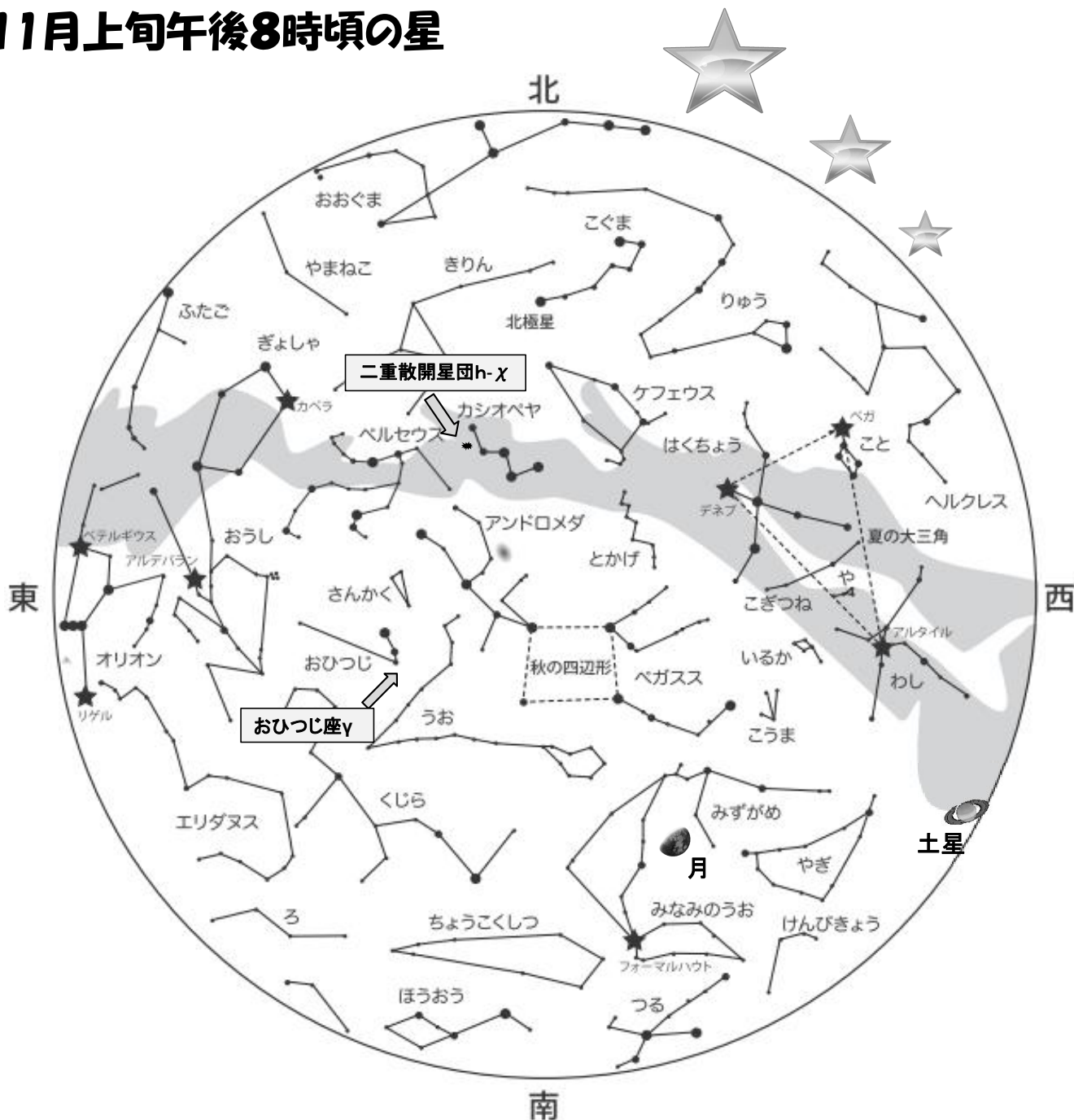


# 松江市立天文台～11月の天文教室～

令和元年11月6日

## 11月上旬午後8時頃の星



秋も深まり、紅葉の便りもそろそろ届きそうです。

午後5時過ぎには日が沈むので、夜半にかけて、夏から秋、そして冬の星座まで楽しむことができます。

でも、さすがに11月ともなると冷えるので、防寒に気を付けてカゼを引かない様に星を観てください。

11月上旬午後8時頃の星空です。

月、土星の位置は11月6日現在で、見かけの大きさは強調してあります。

この星図で星を探すときは、見る方角を下にしてみましょう。

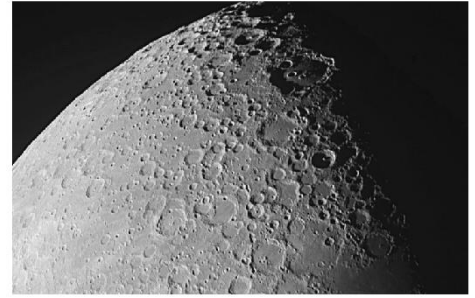
## 今夜の月

今夜の月は、月齢9

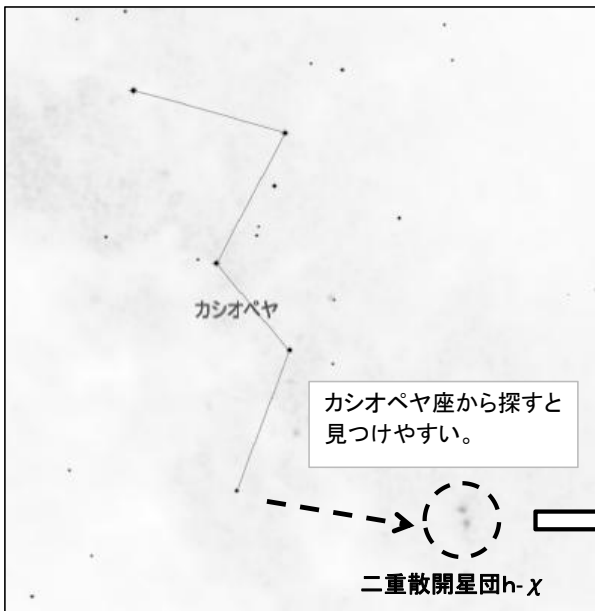
月は地球の周りを約27日で回る衛星で、大きさはほぼ地球の4分の1くらいです。

太陽との位置関係で、三日月や満月などいろいろな姿を見せてくれます。

天体望遠鏡では、クレーターや、「山脈」と呼ばれるごつごつした地形、「海」と呼ばれる黒くて平らな地形などを観察することができます。



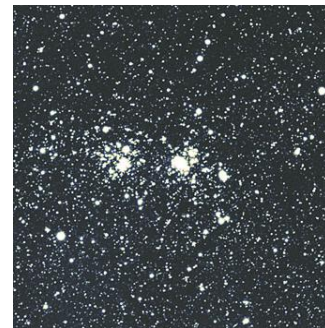
## 二重散開星団h-χ



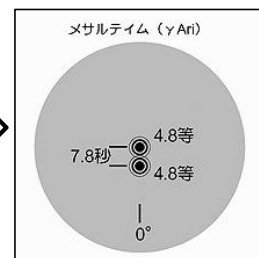
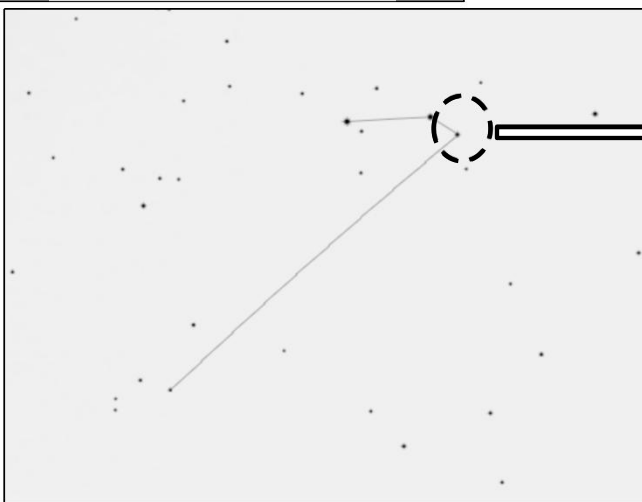
二重散開星団h-χはふたつの星の集まりがくっついてみえる、とても特徴的な星団です。

空の澄んだところでは肉眼でも存在がわかり、双眼鏡で二つの星の集まりであるのがわかります。

望遠鏡では視野いっぱい星が広がって見えます。距離はともに7330光年とされています。



## おひつじ座γ星



おひつじ座γ(ガンマ)星を天体望遠鏡で見ると、同じ明るさの白い星が二つ並んで見える二重星です。

おひつじ座はおうし座のとなりにある目立たない星座ですが、古くからある星座で星占いでは、一番最初の星座になっています。

- 空のコンディション(透明度・雲)等で、天体の見え方は違います。
- 使用する天体望遠鏡によっては、視野の上下左右が逆にみえることがあります。
- 天文のデータは主に天文年鑑から引用しています。
- 星図、写真等の引用元は次のとおりです。  
「国立天文台」、「ステラナビゲータ11」/株式会社アストローツ

